

国際ロータリー第2790地区

松戸ロータリークラブ

THE ROTARY CLUB OF MATSUDO

創 立／昭和31年11月14日 RI承認／昭和31年12月17日



ロータリーの未来は
あなたの手の中に

松戸ロータリークラブ会報
2010年4月7日発行 [第2625回例会]

No. 2624

本日のプログラム

4月7日

卓 話

「ロータリーの友について」

待山克典 会員

次回のプログラム

4月14日

健康診断

卓 話

「超高齢社会での健康生活と人生のおくり方」

島村善行 会員

【2009－10年度 国際ロータリーテーマ】

THE FUTURE OF ROTARY IS IN YOUR HANDS
ロータリーの未来はあなたの手の中に

【四つのテスト／THE 4-WAY TEST】

言行はこれに照らしてから／Of the things we think, say or do

- ① 真実か どうか／Is it the TRUTH?
- ② みんなに公平か／Is it FAIR to all concerned?
- ③ 好意と友情を深めるか／Will it build GOODWILL and BETTER FRIENDSHIPS?
- ④ みんなのためになるか どうか／Will it be BENEFICIAL to all concerned?

●例会日 毎週水曜 12:30～1:30
●例会場 伊勢丹松戸店本館11Fバンケットルーム
TEL: 047-364-1111
●事務所 松戸市松戸1281 ユニティビル2F
TEL: 047-366-2266
FAX: 047-361-2255
U R L : matsudo-rc.com
E-mail : info@matsudo-rc.com

●会 長 中山 政明
●会長エク 伊原 清良
●副 会 長 常盤 映彦
●幹 事 織田 信幸
●会 計 逆井 哲也
●会報委員 待山 克典 平松 徹 奥村 祐二
木村 理 林 希一 太田原慎一
逆井 哲也 田原 晨暁 杉浦 章浩
中田智次郎

●第2790地区ガバナー 中村 博亘 (柏西RC)



「増上寺研修を終えて」

松本幸夫 会員



去る、2月6日（土）～7日（日）にかけて、東京・港区芝の増上寺において行われた「第33回R・Y・L・Aセミナー」に参加してまいりました。今年のテーマは「絆（きずな）～「共に生きる」」でした。

増上寺は、関東での正統念仏道場として、1393年江戸貝塚（千代田区紀尾井町）に建てられました。

浄土宗の7つある大本山の中でも、筆頭に位置される寺院だそうです。

家康公の入府を受け、江戸城拡張とともに、1598年、現在の港区芝に移転されました。

江戸時代に入り、徳川家の菩提寺、浄土宗の学制の総録所として、常時3千名の僧侶が修学に励む寺院となりました。

明治時代に本堂が焼失。大正期には復興されたが、昭和の戦災によって焼失されました。

しかし、戦後、昭和46年より本格的な復旧が始まり、現在も宗教・文化活動の拠点として親しまれています。

昨年から増上寺で開催されるようになり、今年が2回目の開催となります。

9時半からの登録を済ませた10代から70代の総勢124名の参加者が講堂に集まり、10時の開講式で、セミナーは始まりました。

参加者の内訳は、参加ロータリアン30名、スタッフ20名、青少年74名です。

開講式では、まず、船橋西ロータリークラブの嘉規（かき）洋ライラ委員長が開会の挨拶をし、「R・Y・L・Aセミナーの歴史と概要」を説明しました。

R・Y・L・Aとはロータリー・ユース・リーダーシップ・アワードの略で、日本では「青少年指導者育成プログラム」と呼んでいることの説明に続き、1971年にロータリーの国際プログラムとして承認され、世界中で行われており、日本では1976年にスタートし、2790地区では1978年に第1回セミナーが開かれ本年で33回目を迎えるという

歴史を説明しました。

また、セミナーの目的として、ロータリアンと青少年が一泊二日の間、寝食を共にし、「絆（きずな）～「共に生きる」」というテーマのもと、共に考え、更に懇親しながら心のふれあいの大切さを学んで欲しい。参加者はそこで学んだことや、体験したことをもとに、各地域の核（リーダー）となっただき、さらに各地に広めていただきたいと訴えました。

白鳥パストガバナーのあいさつ、スタッフ紹介で開講式は終了し、10時45分より「道場心得」と称し、研修における作法を説かれました。

一言で言うと、とにかく研修中、あらゆる場面で、真無阿弥陀仏の念仏を大きな声で唱えるということです。

特に、講話の前後、食事の前後は、「同唱十念」といって、同じ念仏を十回唱えます。

まむあみだぶ、まむあみだぶ、と唱え、9回目だけ、まむあみだぶつ、と唱え、十回目は最後を伸ばし、お辞儀をします。

合掌の作法も、手の角度は45度を保つとか、数珠の持ち方とか、細かく指導されます。

「行道」といって、会場の移動の仕方も指導されました。

講話が終わると、かいしゃくという鳴り物の音で行動させられます。鳴り物が鳴って、次の会場に移動し、席に座るまでが「行道」です。講話が終わると、1回目の鳴り物で、机の上の整頓、2回目の鳴り物で、席を立ち、合掌し、3回目の鳴り物で、法然上人にお辞儀をして移動を待ちます。念仏を大きな声で唱えながら、1列になって、次の目的地へ移動します。廊下を曲がる時は、前の人と同じところを直角に曲がり、決して列を乱してはなりません。長い移動は、とても腕が疲れます。

休憩が終わり、会場に集合する時も、念仏を唱えながら入場し、モクギョの合図で十念を唱えて席に座ります。

その他、食（じき）作法という、食事の作法があります。黙食といって、私語厳禁です。

食堂に入って、食べて、出るまで、一言もしゃべれないので、とてもつらいです。何か意思表示したかったら、ゼスチャーで会話です。

13時半からの「法話」では、一人の人間の祖先は、10代遡ると1000人、20代遡ると100万人、30代遡ると10億人の祖先がおり、この中の一人でも欠けていたら、私たちは存在しなかったわけで、生まれてきたことは奇跡である。だから祖先の縁を大切にして、隣人との絆を大切にし、共に生きていくことを考えなさい、という内容の話でした。

15時45分からは、瀬戸隆海という増上寺の住職

が基調講演をされました。この人は水海道ロータリークラブのロータリアンでした。

この住職は「チャンスの神様」がいると信じているそうです。「チャンスの神様」は、ビジネスチャンス、人と出会うチャンス等、様々なチャンスをもたらすが、神様が来たのに気が付かず、自分の前を通り過ぎてしまうと、二度とチャンスをつかむことはできないから、常にアンテナを立てていることが大事である、と言っていました。

道場で行う研修がありますが、道場に入る時の、身を清める作法があります。

塗香(ずこう)と触香(しょっこう)というものです。塗香は香を体に塗ります。触香は香をまたいで、香に触れるものです。

夕食が終わると、本堂に「行道」で移動し、雅楽鑑賞をしました。

「雅楽」とは、もともと中国やアジアの色々な地域から渡った音楽のことです。

日本の雅楽は「俗楽」に対する言葉で、「正当な音楽」という意味で、日本に古来からある伝統音楽の総称だそうです。雅楽は、約1200年前から伝わる、世界に誇れる日本の伝統的な文化だと言っていました。

先ほど法話をした、瀬戸住職をリーダーとする

「大本山増上寺雅楽会」のメンバーが、1時間ほどコンサートをやってくれました。演奏してくれたメンバーは若い僧侶たちで、会には、230名在籍しているそうです。

この雅楽会は昭和11年に設立されました。毎週金曜日に練習をしているそうです。各寺院や幼稚園や学校などに出向いて演奏したり、年に1回の定期演奏会も行い、今までに海外公演も11回行ってきたそうです。

雅楽鑑賞が終わると、行道で部屋に帰り、いよいよ待ちに待った就寝準備です。

我々男性は30人と50人の大部屋に寝ました。

翌朝は、5時に覚醒し、朝勤行をいった後に、境内や講堂の清掃をみんなでやります。

2日目のメインは、「参加青少年の声」という研修がメインでした。これは16の班にグループ分けされていて、「絆とは」について2日間ディスカッションしたことを、各グループごとに模造紙にまとめ、壇上で発表するというものです。

閉講式が終わると、昼食を食べながらの交流会を行い、流れ解散となります。

最後に私たちと一緒に参加した安部萌奈さんが感想文を書いてくれたので、それを読んで終わりにします。

RID2790 第33回R.Y.L.A.セミナー日程・時間割表 (於:増上寺)

時程:1日目 2月6日(土)			時程:2日目 2月7日(日)		
時間	内容	場所	時間	内容	場所
8:00	増上寺集合(役員・スタッフのみ)	寺務所	5:00	覚醒(かくせい)	各部屋
9:30	登録開始(光摂殿1階にて受付)	講堂前	5:35	集合	三階廊下
10:00	開講式	講堂	5:45~5:50	行道(ぎょうどう)…移動	廊下→本堂
10:00~	・点鐘		5:50~6:00	朝勤行指導	本堂
	・ソング(国家斉唱、奉仕の理想)		6:00~6:40	朝勤行(あさごんぎょう)	本堂
	・開会挨拶		6:40~7:10	清掃・所務(さむ)	
	・来賓紹介		7:15	集合	食堂前
10:30	・地区委員・実行委員紹介		7:20~7:50	小食(しょうじき)…朝食	食堂
	・点鐘	7:50~8:20	荷物整理・着替え	各部屋	
10:45~11:30	道場心得 ※右図参照	講堂	8:20~8:35	荷物移動	講堂へ
	行道(ぎょうどう)…移動	講堂→食道	8:35	集合	講堂
11:40~12:10	中食(ちゅうじき)…昼食	食堂	8:35~8:50	行道(ぎょうどう)…移動	講堂→道場
12:10~12:40	部屋割り・着替え	各部屋	8:50~9:10	献灯式・作法説明	道場
12:40~13:20	御写経(しゃきょう)	講堂	9:10~10:20	献灯式(けんとうしき)	道場
13:20~13:30	小休止		10:20~10:30	講堂に移動後、小休止	道場→講堂
13:30~14:20	法話(テーマ「絆」～共に生きる)	講堂	10:30~11:15	班別発表準備ディスカッション	講堂
14:20~15:45	ディスカッション	講堂	11:30~12:15	参加青少年の声	講堂
15:45~16:40	基調講演(瀬戸住職)	講堂	12:15~12:45	閉講式	講堂
16:40~16:50	行道(ぎょうどう)…移動	講堂→道場		・点鐘	
16:50~17:10	夕勤行指導	道場		・来賓紹介	
17:10~17:40	夕勤行(ゆうごんぎょう)	道場		・アワード授与	
17:40~17:55	行道(ぎょうどう)…移動	道場→食堂		・来賓挨拶	
17:55~18:50	非時食(ひじじき)…夕食	食堂		・閉会の言葉	
	小休止	各部屋	・点鐘		
18:50~19:05	集合・行道	会館→本堂	・記念撮影(全体・ユニットごと)	12:45~14:30	交流会…昼食 (各ユニット出し物等で懇親会)
19:05~20:15	雅楽鑑賞(ががくかんしょう)	本堂			
20:15~20:30	行道(ぎょうどう)…移動	本堂→各部屋			
20:30~23:00	交流会出し物準備・就寝準備・消灯	各部屋	14:30	解散	

第33回の目的

絆(きづな)～『共に生きる』

ロータリアンと青少年が1泊2日の間、寝食を共にし、「絆(きづな)～『共に生きる』」というテーマのもと共に考え、更に懇親しながら心のふれあひの大切さを学ぶ。参加者はそこで学んだことや体験したことをもとに、各地域の核(リーダー)となっていたいただき、さらに各地域に広めていただく。

※道場心得

「念仏」

研修中はあらゆる場面で「南無阿彌陀仏」と大きな声で唱える

「同唱十念」(どうしょうじゅうねん)

講話の前後・食事の前後などには、10回念仏を唱える

「合唱」

合唱の作法
手の角度は45度、数珠の持ち方等

「行道」(ぎょうどう)

会場間の移動の作法

「食作法」(じきさほう)

食事の作法
黙食(私語厳禁)
食前の言葉・食後の言葉



✦ 会長挨拶 ✦

中山政明 会長

皆さん、こんにちは。先週のマンハッタンホテルでの家族例会に多くの夫人会員の出席を戴きありがとうございます。土屋会員、湯本会員には、おいしい料理の手配等お心遣いありがとうございます。また、親睦委員会の皆様の活躍に感謝いたします。

さて、日本人にとって春と言えば多くの人が桜を思い浮かべるのではないのでしょうか。

「願わくば 花の下にて 春死なん
その望月の 如月の頃」

西行法師が歌に詠んでいます。

この歌を詠んだ、旧暦の如月は、いまの3月です。満月の頃、桜の花の下で死にたいものだと言っています。桜の花びらが、ちらちら舞う中、72歳で静かに逝った西行法師の姿を想像することができます。そしてこの時期に死にたいという感性は日本人らしい気がします。私はこの彼岸に、悲しいことと、おめでたいことの2つを見てまいりました。

その1つは、元我がクラブ会員の小倉孝先生の長女である、小倉恒子さんの死です。彼女は32歳の時、乳がんを発病し手術、その後女医として仕事をしながら25年間ガンと闘い続けておりましたが、この彼岸に57歳にて生涯を閉じました。彼女は彼女自身のガンとの戦いを、2冊の本にしております。一冊目は、「あなただって「ガン」と一諸に生きられる」(河出書房新社)、2冊目は、「怖がらないで生きようよ」(講談社)です。この2冊は全国のガン患者の励ましはもちろんのこと、ガンでない人々にも感動を与え、テレビ等でもよく報道されました。私も小倉恒子さんのガンとの戦

いを目のあたりにしておりましたが、今回の訃報に御両親の悲しみは計り知れません。お悔やみを申し上げます。

その2つ目は、親戚の白寿のお祝いに呼ばれました。その人は、小泉会員のお父様とも大学の馬術部で親交のあった明治44年3月21日の生まれ、今年満99歳を迎え、親戚、知人等集め祝いました。還暦、古希、傘寿、米寿とありますが、100歳の百から一を引いた白寿まで、元気で外出も出来ません。鬢髻としており、お祝いのお礼の挨拶もはっきりとし、それは元気なものでした。本来歯医者で80過ぎまで診療をしていましたが、戦前には陸軍将校の少佐までなり終戦を迎えました。私の母に言わせれば、長靴を履き軍刀を下げそれはかっこうよかったそうです。終戦時はシンガポールで迎え、よく戦争の話が聞かされました。少佐が歩いてきたことに気がついたら10歩手前に敬礼を受け10歩過ぎてから直れ、だそうです。当時宮様軍人に対しては12歩手前と決まりがあり、俺は宮様と2歩しか変わらないという話や、フィリピンでの実戦の話等を聞かされました。今でもその当時のことをよく話せます。いろいろと勉強になる多くの事を話してしていただきます。このような生き証人となるお年寄りの話は良く聞き参考にしなければならぬと思います。

この2つの出来事で今年の彼岸はいろいろな意味で生きている私たちを感謝の心で励ましてくれる1週間でありました。



✦ 幹事報告 ✦

織田信幸 幹事

1. クラブ内、会議・連絡事項等の案内
来週の例会は定款第6条第1節の規定によりまして休会とさせていただきます。
(次の例会は4月7日です)

2. 外部からの会議・連絡事項等の案内

去る3月11日に第4回第12分区会長・幹事会議がニュートキョーにてございました。1・Mが無事成功裏に終了したことの報告と5月開催予定の12分区5クラブ対抗ゴルフについての協議がございました。

また、その席で松戸西クラブより創立25周年記念式典開催の案内がございました。

- ・ゆめ半島千葉国体の募金箱が届きました。
- ・チリ大地震の支援方法についてガバナーより連絡がありました。(今回は地区としての取りまとめはせず)

3. 他クラブ会報・その他

会報が銚子RC・流山RCより届いています。

4. 例会変更の連絡

松戸西RC

4月7日(水)は観桜会の為夜間例会に変更
点鐘 18:30

場所 東漸寺

4月21日(水)は創立25周年記念事業の為移動例会に変更

時間 16時～

場所 松戸市民劇場前

市川東RC

3月30日(火)は定款第6条第1節により休会

4月6日(火)は通常例会

但し、例会を短縮し市川駅前南口に移動後、創立40周年記念事業、植樹及び記念碑序幕式

点鐘 12:30

場所 市川商工会議所

4月13日(火)は会員親睦移動例会に変更

佐渡ヶ嶽部屋(松戸市)

我孫子RC

4月6日(火)は家族親睦旅行に変更

場所 伊豆 熱川温泉

4月20日(火)は第10分区合同例会及び親睦ゴルフへ変更

柏RC

4月21日(水)は4月20日(火)の第10分区合同例会及び親睦ゴルフへ変更

5. その他報告

特にございません

ご挨拶

米山奨学生 申 東善 様



2年間、本当にありがとうございました。

聖徳大学大学院 言語文化研究科 博士後期課程 申東善と申します。

今日、このように奨学期間終了にともなって、挨拶の時間をいただき、ありがとうございます。中山会長様、カウンセラーの待山先生、そして松戸クラブの皆様、2年間、本当に心からの感謝の気持ちを申し上げたいです。

留学生活の中で、米山奨学生に過ごしたこの2年間は、自分にとっては本当に充実した2年間だったと思います。奨学金が勉学に専念できるよう経済的に助かるのはもちろん、世話クラブであるここ松戸クラブの例会に出席、クリスマスパーティなどはとても楽しかったです。そして、外で見る日本の文化ではなく、自分の体で感じながら得た日本の文化は、私を精神的に成長させていただいたと思います。こんな大事な経験は、日本にいるすべての留学生が体験するものではないと思います。私にとって、この2年間は、留学生活の中でも、もっとも充実した時間で幸いの時間だったと思います。

これからも、米山奨学生であったことを誇りに持って、応援してくださったロータリアンの皆様に恩返しができるように頑張ります。そして、米山奨学会にしっかりと、報告ができるように、認められる一人の社会人として成長したいと思います。

奨学期間が終わっても、機会があればぜひ、時々には例会に参加したいと思いますので、よろしく願いいたします。本当に2年間、ありがとうございました。



【例会写真】



松本会員



中山会長と
米山奨学生
申 東善 様



待山会員



平松会員

【出席報告】

会員51名	義務会員41名	免除会員10名
出席37名	義務会員32名	免除会員 5名
仮欠14名	義務会員 9名	免除会員 5名

【欠席者】

斎藤 重久君	田中 忠行君	草野 進君
常盤 映彦君	島村 善行君	橋口 和幸君
川並 芳純君	竹内 博君	中田智次郎君

【M U】

湯本 高之君 松戸東RC 3月19日

本日出席率 80.43%
先々週出席率修正 80.85% 85.11%

【お客様】

三浦 亮一様 東京江戸川RC
山本 忠明様 松戸東RC
渡辺 剛様 松戸東RC

ニコニコBOX

【ニコニコBOX】当日¥ 10,000 累計¥1,020,430
【財 団BOX】当日¥ 3,463 累計¥ 101,954

伊原清良君 / ひさびさの十日会でしたが、優勝できました。同伴競技者の松田さん、田原さん、土肥さんに感謝。開き直ってのフェアウェイウッドがうまくいきました。ホームコースの会報に拙文が掲載されました。

下記の(フェローシップおじさん)実は伊原会員です。ご笑覧ください。

すみれが変わっていく

フェローシップ&エチケット委員会

伝統ある紫CCすみれのコースレイアウトがどんどんと変わっていく。

朝一番の従業員の対応も丁寧になってきた。メンバーの意見は様々だが、良くなっていくんだと信じたい。一年後の完成まで、修理他におけるニアレストポイントなど、ルールも「自分に厳しく」して、むしろ工事中を楽しみたいものだ。

名門コースへの脱皮。脱皮しない蛇は死ぬという。メンバーのマナーや品格をより良くすべきだと、フェローシップおじさんは思うのである。

過日、霞ヶ関カンツリー倶楽部でラウンドする機会にめぐまれた。最後の9ホールで、ティーグラウンドに立った時、前組は初老の男性1人とご婦人3人のパーティであった。やれやれ、これは待ち待ちになるのかと覚悟した。ところが結論としてはついに追いつくことはなかったのである。

なぜならば、ひとりが右の林へ打ち込んだら、その組全員がさっと一直線に右の林に向かっていく様子を見た時、霞ヶ関CCのメンバーの成熟されたラウンド能力を感じたものである。グリーン上もきびきびとしていた。旗竿などさっと持ち、すぐに立ち去った。キャディにたよらずに目土もしていた。

フェローシップおじさんは、すみれの伝統に自分たちの「マナーを向上させる」ことで寄与したいと思う今日この頃である。

(フェローシップおじさん)

文責 / 林